


令和3年度		
氏名	ふくだ こうぞう 福田 浩三	
生年月日	昭和40年生	
住所	奈良県桜井市	
品目	<p>薬用作物（当帰、芍薬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県は当帰（トウキ）、芍薬（シャクヤク）を中心に古くから生薬の産地（日本で使われる300種弱の生薬の使用量は芍薬が2位、当帰は9位。） ・ 奈良県産の当帰・芍薬は古くから「大和もの」として知られる ・ 奈良県では、平成24年に「漢方のメッカ推進プロジェクト」を立ち上げ、当帰は最重要作物として、芍薬は重要作物として振興を図っている 	
技術	<p>伝統技術をはじめ栽培から調製まで当帰及び芍薬の生産に精通し、五感による生薬の品質評価を行う</p> <p>【当帰】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県での伝統技術で熟練を要する苗定植時の「芽くり」（芯部の除去）技術を継承 ・ 高品質を確保するための収穫後の伝統的な調製・加工方法（温湯処理など）を栽培者らと機械化（全国各地に普及） <p>【芍薬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫した根の変色を抑制して高品質な製品に仕上げる加工技術を開発 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸時代後期創業の生薬問屋で、栽培指導、品質管理、買付け、経営に長年携わる ・ 全国各地の栽培者へ現地での栽培技術指導を実施 ・ 奈良県内で古くから栽培される芍薬の薬用系統「ボンテン」の増殖と全国への普及活動を実施 ・ 大学関係者や研究機関の研究者等に対する研修を実施、特に次世代を担う若手指導者の育成において最新技術だけでなく、伝統技術の継承を踏まえた指導を目指す 	
相談に応じられる分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬用作物の栽培・普及に関する相談 ・ 当帰・芍薬に関する技術的指導、現地調査 	
受賞歴等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬学博士 	
寄稿文	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大和当帰の栽培生産の歴史と現状 薬史学雑誌、44（1）、10-17（2009） 	
主な役職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和漢生薬 福田商店 代表 	
H P		



トウキの栽培圃場（左）、トウキ（中）及び生薬トウキ（右）



薬用種として奈良県大和地方に古くから伝わっている「ボンテン」系統